

「冠水センサー」理解深める 美波

冠水情報を即時収集・伝達するシステムを開発している徳島市の建設コンサルタント会社「ニタコンサルタント」と徳島大環境防災研究センターでつくる研究チームは6月30日、実証実験を行っている美波町で初会合を開いた。町職員ら約20人が出席。ニタコンサルタントの安芸浩資常務取締役(52)が、水に触れると発電する電池を内蔵した小型センサーの仕組みや取り付け位置の選定理由などを説明した。日和佐中学校(西河内)の近くの街灯に設けられたセンサーも視察した。

出席者から「冠水したセンサーは再利用できるのか」などの質問があり、担当者は「水は問題ないが、泥が付着した場合は分らない。場所によっては付け替える必要がある」などと答えた。

研究チームは実証実験を通じ、路上などの外部環境に対するセンサーの適応力やシステムの事業化に向けた課題を調べる。

(高橋翼)



街灯に取り付けられたセンサーを視察する出席者＝美波町西河内